

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	法務研究科（法科大学院）
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法 【自己評価 S】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	法律基本科目は、専任教員によって授業が行われ、これらの科目については「学生の到達目標に関する基本的な考え方」をそれぞれ文書で提出し、授業はそれに沿うように企図することが、教授会で申し合わされている（R3）。講義だけではなく、「理論と実務との架け橋」を意識した授業が実施されている(R4)。更に、「クリニック」「エクスターンシップ」「模擬裁判」を通し、法律実務に必要な学識、能力、実務の基礎的素養を涵養するための教育を施している(R5)。授業では、小テストやレポートが課され、学生の理解を深める手法を取っている。また、授業を補完するため「オフィスアワー」を設け、学生の疑問などじっくり聞く機会を設けている。授業外として、学習指導員による学習相談やゼミが開講され、学生の学習効果や学習意欲を高めるようにしている。
4-3-2	シラバスは前年から同じフォーマットで作成するよう教員に依頼し、前年の3月末のガイダンス時に冊子として教員に配布するとともに、教育研究支援システム（以下 TKC と略）にて、学生および教員にも告知される。シラバスの記載内容が適当かどうかの検証は教務委員会が行う。シラバスに順じて授業を進めるが、授業の進行が遅れる等により、シラバスと実際の授業との乖離が生じた場合には、該当授業担当教員が学生に適時告知する他、TKC を通じて再スケジュールを図り、学生に不利益が及ばないように工夫している。
4-3-3	本法科大学院の成績評価は事前に定められた成績評価基準に従って行われている。基準はシラバスに明示されている。評価の実施は、厳格性・客観性を保ちながら行われる。例えば試験問題を事前にチェックするとともに、後日、試験問題を TKC で公開する等。採点は教員が行う。また、成績評価について学生から疑問を受け付ける異議申立て制度を設け、恣意的な採点を避ける方法をとっている。以上に基づき単位認定は厳密に行われる。教員が採点した成績については、教務委員会および教授会に資料として提出されることで、成績評価と単位認定を客観的に確認できる。
4-3-4	授業計画は、基本的に各教員に委ねられるが、科目別 FD 分科会や同一科目を担当する教員間で調整されている。レジュメ配布や予習指示等の具体的な授業準備は、TKC を通じて行われることが多い。授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修はFD委員会場で行われる。また、FD委員会は、教育成果についての検証を行う責任主体・組織であり、教育成果について定期的な検証を実施している。更に、本法科大学院では、前期と後期の授業終了に行う授業評価アンケートを行っている（結果は、毎年発行されるFD報告書に掲載されている）。授業評価アンケートでは、教員の個々の評価が数値とコメントとして現れており、個々の教員には授業の改善に参考になる。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	学習指導員による授業の補完が行われている。
4-3-2	ほとんどの科目につき詳細なシラバスが作成され、配布されている。
4-3-3	成績評価につき、異議申立て制度が設けられた。
4-3-4	教育成果を点検するためのFD委員会を開催している。

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	シラバスが十分詳細でない例が若干見られる。
4-3-3	異義申立て制度の濫用を防ぐ必要がある。
4-3-4	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

R3 2012 年度自己点検・評価報告書 P76-P89、R4 同 P90-102、R5 同 P103-P111
--

《指標データ》

データ集（表 8）大学院における学位授与状況

（表 1 0）公開講座の開設状況

（表 1 1）学生の国別国際交流

（表 1 2）海外への派遣学生数

（表 1 3）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表 1 4）教員・研究者の国際学術研究交流

（表 1 7）各年次ごとの履修登録単位数制限の状況

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-2 シラバスに基づく授業の展開。	授業評価アンケートにおけるシラバスについての評価。	→				
14 年度 目標	4-3-2 より役に立つシラバスの作成。	履修条件に関して定められた表現を用いてないシラバスの数。	→	A			